

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

2014 せいきょう秋の強化月間

## 速報

### 茨城のお米「めぐみちゃんコシヒカリ」 放射能セシウム濃度速報

1 検体 1 1 時間測定、検出限界核種毎 0.15 ベクレル /kg で  
玄米 6 検体、白米 1 検体測定終了。中間報告

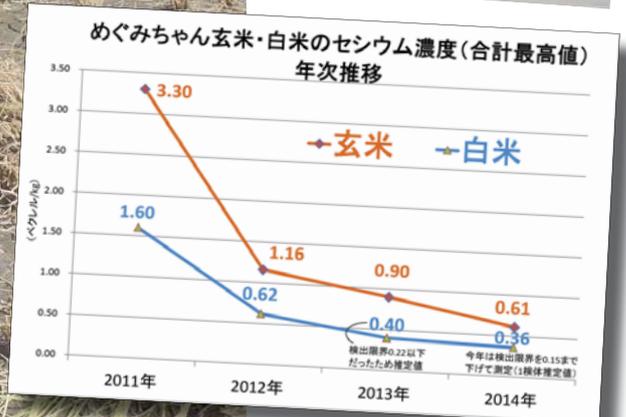
## めぐみちゃんコシヒカリ

玄米セシウム最高値 0.61Bq/kg  
白米セシウム最高値 0.36Bq/kg (推定)  
高いのか低いのか・・・



## 私たちの食は今

— 終わっていない食と環境の放射能汚染 —



【速報】 私たちのおコメ

# めぐみちゃん玄米・白米セシウム濃度

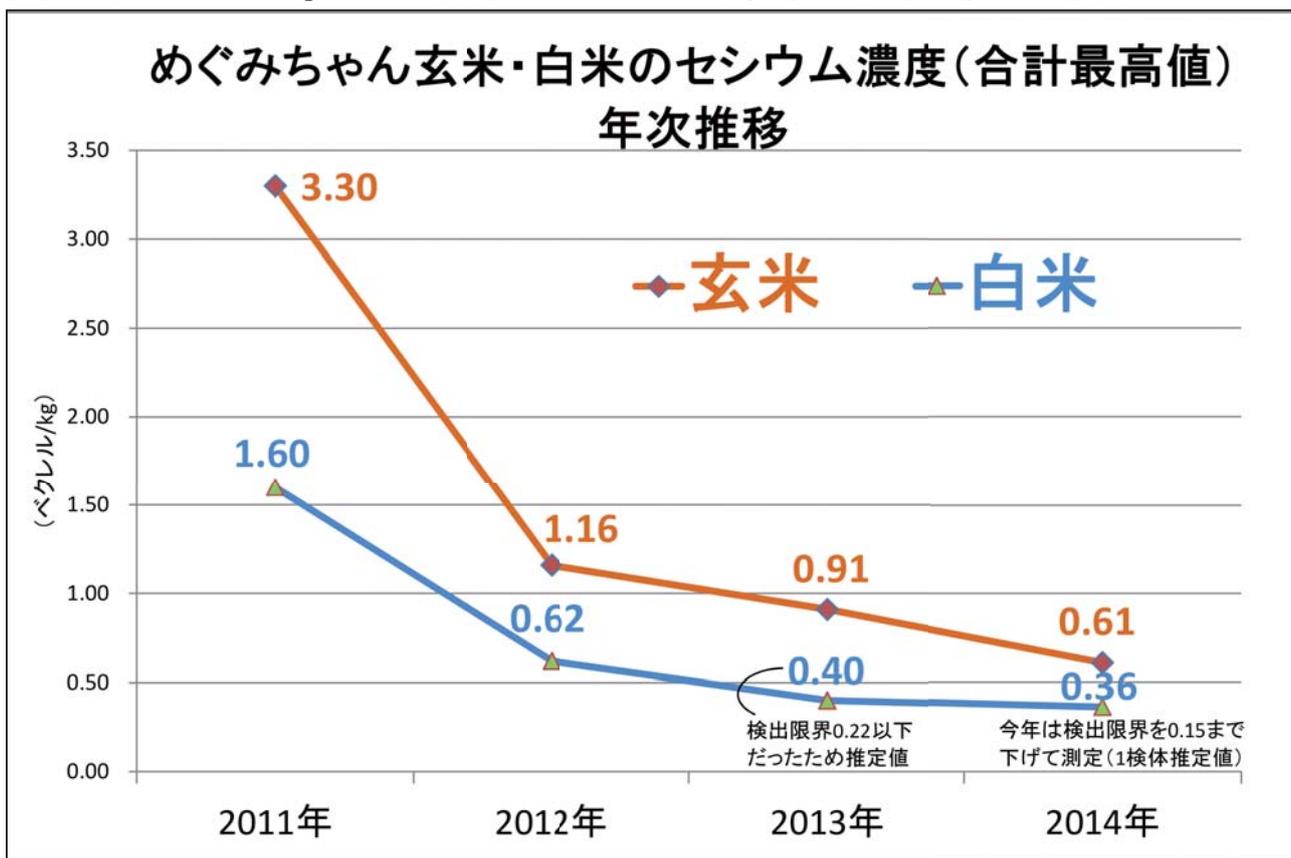
今週は私たちの契約米、茨城水海道（現常総市）の「めぐみちゃんコシヒカリ」（2014年産新米）の放射能検査の中間報告（速報）をお伝えします。

めぐみちゃん「玄米」は昨年最高値で0.90ベクレル/kg。今年の玄米の検査9生産者分を終えたところで**玄米最高値は0.61ベクレル/kg**。

めぐみちゃん「白米」は、昨年は全検体検出限界以下（0.2ベクレル/kg）で推定最高値0.4ベク

レルとしました。今年**は検出限界を0.15まで下げてまだ1検体の検査しかできていませんがセシウム137を0.23ベクレル検出**。セシウム134は検出限界値以下で定量できませんでしたが検出限界値0.137を加算して**白米は最高で0.36ベクレル/kgと推定**されます。

来週までには新米の全生産者・全検体を終了し、最低値・最高値・平均を含めた報告ができる予定です。（商品部・商品検査室 横関）



わたしたちの食べ物は、この母なる大地からしか生まれません。

2014年の組合員による田植え風景



私たちの生産者の田んぼや畑の土壌中セシウム濃度の年次推移も左に示しました。農地の方が住宅地周辺よりも低い傾向です。住宅地では屋根に降ったセシウムが雨樋を通じて集まり局所的に高いところがあります。地域単位では高低差による雨水の集積地があると、そこにセシウムが集積し『都市濃縮』と言われる高い場所が発生しているので注意が必要です。

## 【私たちの地域は今】

# 終わっていない放射能汚染の現実

毎日食べ続けるお米。母なる大地からしか作られないお米。裏面で報告していますが、今年も組合員家族が生産者といっしょに田植えをし、草刈りし、そして収穫に感謝しました。

放射能汚染のこの数値。高いのか低いのか？そんな問題ではなく、放射能をまき散らし大地を汚染し、私たちの大切な食を汚染した原発にあらためて腹からの憤りがこみ上げてきます。やはりとんでもないことです。

### ○「核と原子力の時代」の食

「いのち育むはずの食べものに、身体を傷つける放射能が微量であれ常に入っている」そしてこれが30年、60年と続く。こんなことは、1945年の核と原子力の発明以前人類史にはなかったことです。

1945年の広島・長崎原爆投下による被ばくと汚染、その後1950年代から60年初頭にかけて核実験により世界が汚染され、そしてチェルノブイリ原発事故、ついに福島原発事故で私たちも被ばく当事者となり、私たちの食を生み出す田畑も汚染されてしまいました。

そして、毎日の食にも放射能が入り込み消え去らない時代に私たちは今生きているという現実をしみじみ考えざるを得ません。

### ○再びあやまちを繰り返そうとしている私たちの国

「福島原発事故は我が国はじまって以来最大の公害。原子力発電がCO<sub>2</sub>を出さないクリーンエネルギーなどという主張は甚だしい筋違い」と指摘した大飯原発福井地裁判決（住民勝訴）を、政府・電力会社は総力を挙げて黙殺しようとしています。

こんな大規模な「公害」を起こして有害物質をまき散らしても誰も責任を問われないばかりか、再び災禍を引き起こす可能性のあるものを稼働させようとする前代未聞のことが今私たちの国では起きています。

2011年の大地震も、今回の突然の火山の噴火も日本列島の自然の猛威を見せつけ、巨大カルデラの真ん中にある九州川内原発を再稼働させようとしている人間の懲りない愚かさ自然が怒っている

かのようなのです。

### ○100ベクレル以下ならよいのか・・・慣らされることの怖さ

世の中は、100ベクレル以下であれば何事もないように、なんらの表示もしないでも食べ物が流通し、何事もなかったかのように食べてゆく。もう原発事故があって多くの人が被ばくし、環境が汚染されたことなど、政府の「新たな安全神話」によって多くの人は忘れ去ろうとしているかのようなのです。

### ○忘れることではなく、この現実をかみしめ、再び繰り返させないことを

「食べもの」とは、動植物のいのちを頂き、私たちのいのちを育む糧である以上、健康で安全でなければなりません。

ところが、こうやってたとえ微量であったとしても毎日食べるものに常に放射能が存在している現実を私たちはしっかり身体に、心に、刻んでおく必要があると思うのです。たとえ1本の放射線であれそれは細胞を傷つける可能性があるから。わが子も家族もそれを食べるのですから。

大地からも、かつての核実験後の2倍以上の放射線が出され身体を通過している。そういうところで生活をしている。この現実から逃れられないこと。

そういう時代に子どもたちは生まれてしまいました。

一般には「そんなに深刻に考えなくたっていいじゃないか」「この程度のレベルでは仕方ないのでは」という声もあります。

いや、そうであるからこそ「ごはんを美味しく頂いて」と言うと同時に「しかし、私たちの毎日のお米も微量であれ放射能に汚染されています。その現実も含めて噛みしめて食べて下さい」と言うしかありません。そしてもう二度と繰り返してはならないと。

主食であるおコメの放射能汚染レベルをニュースでお知らせせざるを得ないこと自体が「異常な時代」であることを前提に、おコメの様子をお知らせします。  
(副理事長 大石)

## 【常総生協 - めぐみちゃん生産者の実験田・稲刈り】

いつもの「めぐみちゃん」がとても身近に感じられました。



健康の基本＝安全な主食（米）は、健全な生産と消費の関係のもとで確保できます。

9月20日（土）、総勢30人の組合員と職員（生協・JA）、生産者で5月24日に田植えをした田んぼの稲刈りを行いました。

大きく育った稲を見て、田植えに参加した子供たちも『すごーい!』と大興奮。生産者にも手伝ってもらいながら収穫の喜びをみんなで分かち合った一日でした。

昼食にはめぐみちゃん生産者のお母さんたちが朝早くから拵えた新米のおにぎりをみんなで頂

きました。その美味しさを実感すると共に、安全で美味しいお米を届けてくれる生産者の大切さを改めて思いました。

TPP や米価下落と生産者を取り巻く社会情勢は年々厳しさを増しています。この状況が続けば、主食にも関わらず国産のお米を手に入れることすら難しくなってしまうかもしれません。

そんな時だからこそ、顔が見える地元の生産者との繋がりを大切に、私たちの主食であるお米について組合員、生産者一緒に考えていきたいと思えます。（商品部横関）



「おにぎり」に味噌汁、漬け物、そして肉じゃがのお昼。

### 生産者の顔が見られてとても身近に感じました

貴重な体験ができて、子供たちもとても楽しかった様で、参加してよかったです。

普段何気なく食べているお米も生産者さんの顔が見れて、とても身近に感じることができました。素敵なイベントなので、もっと大勢の人に参加して体験してもらえたらなと思います。（柏市 伊与田）

### 親子で大満足な体験でした！

手刈りもコンバインも好きなように体験させてもらって、親子共々大変満足しております。前回参加者との再会も嬉しかったです。

これまであまり生協さんのイベントをチェックしてこなかったのですが（すみません）、これから色々参加させていただきたいなあと思いました。

めぐみちゃんを常総生協さんが扱っている理由などのご説明が一言で良いのであるとよかったかもしれません。（つくば市 金森）

### 貴重な体験に感謝！

素晴らしい晴天の下、稲刈り初体験、とても楽しかったです。娘は自分でカマを持って刈る事が出来たこと、息子はコンバインを間近で見られたこと、そしてカエル・ザリガニ・バッタをつかまえたこと、心から楽しんだようです。

お昼ごはんも、いつも心のこもった美味しいものを沢山ご用意下さり本当に感謝しております。主食であるお米の作り方を体験するという貴重な機会を本当に有難うございました。（龍ヶ崎市 太田）

### 「めぐみちゃん」の生産と消費の関係、いつまでも

稲刈り体験、天候にも恵まれ楽しませていただきました。田んぼの生き物の多さにつくづく「めぐみちゃん」の生産と消費の関係を続けていきたいと思えました。本当にありがとうございました。

（龍ヶ崎市 石井）